

御神楽岳 鞍掛沢右俣

杉崎 圭洋

■山行年月日:2021年

7月22日～23日

■メンバー:CL 大竹幹衛、大竹尚子、
窪田道男、佐藤利伊、国分 勉、
保科勝人、杉崎圭洋

■コースタイム:鞍掛沢出合 BC 6:10 ～
鞍掛沢右俣 7:40 ～稜線 14:00 ～
林道終点駐車場 19:00

初日、霧来沢林道終点から1時間程歩くと広々とした川幅でまっすぐな流れの八丁洗板と呼ばれるきれいなナメが現れた。そこから少し先が鞍掛沢の出合となり登山道は霧来沢沿いを少し進んでから尾根に上がっていく。鞍掛沢出合近くに丁度良く流木が溜まっていて、明るい沢の脇にベースを設営することとした。

7月中旬も過ぎてメジロが心配だったが、まだ姿は見えず快適そのもので昼寝でもしたくなるようだ。ひと通りの準備

を済ませても、まだまだ時間はたっぷりとあるので各自釣りに出掛ける。前夜祭の為に一人一匹ずつは欲しいところだが、午前中も関東から来たと言う釣り人がベースのすぐ手前まで釣り上がって来ていたし、駐車スペースにも車が多く入っていて苦戦が予想された。魚のあたりも姿も見えず淡々と遡って行く。

しばらく我慢強くポイントを探って行くと上から一人下りて来た。「釣れましたか」と聞くとみっちりイワナが入ったビクを見せてくれた。「これじゃ釣れねーな、こんなに獲ってどーすんだよ」と思ったが、ここで情報をゲット。地元釣屋さんはこの先の本流を釣ってきたそうで M.H.S の三人は右に行くことにする。右の支流に入ると入れ食いとなり3人の顔がほころぶ。その夜の宴は現地調達のみずのおひたしと安定の旨さ、ほーさんのイワナ串焼きで大いに盛り上がった。



ベースでのんびり

2日目6:10にベースを出発する。しばらくすると雪渓が現れ、さらに進んで2段10mの滝で1本とる。7:40右俣入ると30mの大滝が現れた。すべりやすい斜面を右から巻いて沢に戻る。そこからは様々な滝がどんどん続くが全体的にぬめりが多く気が抜けない。4m位の足場がない滝ではぶんさんにハーケンを打ってもらい何とか



中間部を進む

乗り越えたり、その後も幹衛さんの膝を足場に乗り越えお助け紐でひっぱり上げたり、手掛かりの少ない高巻きで体力を削られたりしながら登った。沢水もやがて細くなり稜線が近くなってくる。そろそろフィナーレかなと安心するが、そこからさらに手掛かりの少ないつるつるの滝が出た。疲れも程よく溜まり体も重く感じ（実際に重い）一歩がなかなか進まないが、ぬるぬるの岩を手で磨きそこに足を乗せるとグリップが強まり少し安定してくる。もうひと踏ん張りして、やっと藪こぎになり 14:00 に稜線 1130m 付近に出た。6 時間たつぷりと変化のある沢が連続して楽しく登れた。しかし、ここからの帰路を考えると手放し

には喜べない。稜線の向こうは憲さん達が登ってくるム沢が見える。自分たちの登って来たルートとは違って雪渓が大量に残っているようだ。尚子さんが携帯で連絡を試みるが応答はなかった。

稜線に座ってしばらく景色を眺めながら休憩をした。30 分ぐらい経ったところに小雨がふりだした。気温は低くなかったの
で寒さは感じなかったが、そろそろ下山する事になり本名御神楽岳に向けて歩き出す。歩いている内に雨は強くなってきた。山頂を通り越して少し下った所にある避難小屋で休憩とした。避難小屋は老朽化が進んでいて上を見ると屋根に破れがあり、

所々から空が見える。それでも腰を下ろして一息つけるのはありがたいことだが、いつまで使うことが出来るだろうか。小屋を出ると雨は止み登山道をてくてく帰る。ベースを撤収して林道の駐車場についたのが 19:00 で丁度日暮れとなった。



屋根が破れた避難小屋